２　学習意欲を育て，他者と協働しながら考え続ける力を育む授業づくりの実際

「説得するための工夫を自分の投書に生かそう　～新聞の投書を読み比べよう～（第６学年）

（１）育成したい「思考力」と学びに熱中する子どもの姿

【単元で育成したい「思考力」】

意見文を読み比べ，読み手を説得するための書き手の工夫に気付き，書き手の考えを捉えることでその考えに対する自分の考えを創造する力

書き手の考えに対して自分の考えをもつことに興味をもち，自分の考えを友達と話し合うことで，読み手の考え方がさまざまにあるおもしろさに気付き，他の意見文でも自分の考えを創造しようとしている。

【学びに熱中する子どもの姿】

本単元では，教科書教材であるスポーツをすることの目的について書かれた四つの投書や，身近にある意見文を読み，書き手の考えに対する自分の考えを書くという言語活動を設定する。その中で学習指導要領C読むこと（１）ウ「目的に応じて，文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり，事実と感想，意見などとの関係を押さえ，自分の考えを明確にしながら読んだりすること」をB書くこと（１）ウと関連付けて指導する。子どもたちは，複数の投書を読み比べることで，それぞれの書き手が読み手を説得するためにしている工夫に気付く。読み手を説得するためにしている工夫とは，主張の根拠として「自分が経験したこと」「見たり聞いたりしたこと」「資料に基づく具体的な数値」「有名人のことばを引用」等を述べることである。これらの工夫に気付き，書き手の考えを捉えることで，「僕は，スポーツは心と体の健康のためという考えにすごく納得するよ。その理由は，自分の経験を基に述べていて，けがをした人にしか分からない気持ちが伝わるからだよ」「なるほど，そういう考えもあるんだね。でも，私は，この書き手の考えにはあまり納得しないよ。その理由は習い事で厳しい練習をしているけれど，大会でベストの記録が出たときは，うれしくて，今まで厳しい練習をしてきてよかったと思ったからだよ」のように自分の考えをもち，友達と交流していく。そうすることで同じ投書でも読み手によってさまざまな考え方があるというおもしろさに気付く。友達と交流し，自分の考えが深まったり広がったりすることで，他の意見文についても，自分の考えを創造しようとしている姿を目指す。

（２）新たな問題を共有する場を位置づけた単元構成について（新たな問題は二重下線部分）

【関心度を高める単元構成】

書き手の考えに対する自分と友達の認識のずれを感じる場面を位置づけ，教科書教材以外のさまざまな意見文に対しても自分の考えを創造し，友達と交流することに関心をもたせる。

質問紙調査の結果から，新聞や投書に対する関心が低いことが明らかになった。このことから共通教材である新聞の投書を読み比べる際に，意欲が低下すると予想されていた。そこで，まず，意見文を書くという目標を設定した後に，身の回りのさまざまな意見文を見つける時間を設定し，身の回りには多くの意見文があることを知った。そして，教科書教材の四つの投書について，自分の考えを創造した。そして，その考えを友達と交流する場面を設定した。そうすることで同じ投書でも，読み手によってさまざまな考えをもつことに気付かせた。つまり，友達との認識のずれを感じさせたのである。このような場面を位置づけることで，さまざまな意見文でも友達と交流したいという関心が高まり，教科書教材の投書について意見を交流した後に，「<u>自分たちの見つけた意見文でも，友達と考えを交流したい</u>」と

いう新たな問題が生まれた。これを共有し，解決していくことで，自分たちが見つけたさまざまな意見文についても自分の考えを創り，友達と交流していったのである。このように，単元構成を工夫することで教科書教材以外の意見文についても進んで自分の考えを創造し，友達と交流することができた。

（３）単元計画と学習意欲への働きかけ（総時数　８時間）

次	主な子どもの意識および学習の流れ	学習意欲への働きかけ
第一次	① 自分の投書を書くための計画を立てよう 自分の投書を書くという単元のゴールを設定し，その計画を立てた。 自分の投書を書くためには，さまざまな投書を読んで，書き方の工夫やポイント等を知りたいといった投書づくりへの関心を高めていった。 ② 身の回りの意見文を探そう 身の回りには，投書以外にも，コラムや広告等，意見文がたくさんあることを知り，意見文が多様にあることに気付いていった。	③④ 自【構成○分かりシート】 文章構成を捉えられるように，主張や根拠等を色分けした。そうすることで構成に着目して読むことのよさに気付き，自分で意見文を読む際に生かせるようにした。
第二次	③④ それぞれの投書の書き手の考えを読み取ろう 教科書教材の四つの投書を構成に着目して読むことで，書き手の主張や根拠の挙げ方といった読み手を説得するための工夫等を捉え，投書の目的や内容への理解を深めた。さらに，読み手を説得するために，どのような工夫が効果的かという関心を高めていった。 ⑤ それぞれの投書に対する自分の考えを伝え合おう 本時（5/8） 書き手の考えに対してどれくらい賛成なのか，その理由を伝え合い，自分と違う理由や，自分では気付かなかった考えにふれることで，読み手はさまざまな考えをもつという友達との認識のずれを感じた。投書に対する友達の考えに関心が高まった子どもたちは「他の意見文でも友達と考えを交流したい」「同じグループ以外の人の考えも聞きたい」等と新たな問題を表出した。 ＜評＞読み手を説得するための工夫を捉え，書き手の考えに対する自分の考えを述べている。	③④⑥ 関・自 【広がり∞コーナー】 教科書教材で学習した読み手を説得するための工夫がどのように使われているのか示し，学習の広がりを捉えられるようにした。 ④⑤ 関【賛成メーター】 投書に対して，自分がどれくらい賛成しているかを視覚的に示し，友達の考えとの異同に気付けるようにした。
第三次	⑥ さまざまな意見文で，友達と考えを交流しよう さまざな意見文で自分の考えを創造し，友達と考えを交流することで，読み手によってさまざまな考えをもつことへの理解を深め，より読み手を説得するための投書を書くには，どの工夫を使えばよいかというように投書づくりへの関心を高めていった。 ⑦ 自分の投書を書くための構成を考えよう さまざまな意見文の中から，自分の投書に生かせそうなものを見つけていった。 ⑧ 読み手を説得するための工夫を使って，投書を書こう これまで学習してきたことを生かして，自分の投書を交流する中で，読み手を説得するための工夫についての理解を深めていった。	------- 振り返り ------- ①～⑧【次への一歩】 授業の最後に「分かったこと」「難しかったこと」「もっとしてみたいこと」の三つの観点で振り返った。さらに，その三つの観点について交流することで，授業で難しかったことについて友達に質問することができ，振り返りの場面で協働することのよさを実感したり，新たな問題を共有したりした。

（４）学習意欲への働きかけと子どもの姿

① 新たな問題を共有するまでに（１～４時間目）

１時間目では，子どもたちが読んでいる新聞の中には，読者がさまざまな問題について自分の考えを投稿する「投書」というものがあることを知らせた。そして自分たちも読んだ記事等に対する投書を書くという単元のゴールを設定した。

２時間目では，新聞や雑誌，インターネット等から意見文を探した。そして，その中から自分が投書を書く際に使えそうな，読み手を説得するための工夫を探していくことにした。その際，まずは，教科書教材から見つけようという意識が生まれた。

３，４時間目では，教科書教材の投書を読む際に，右のような投書の主張や根拠等を色分けしたシートを使うことで，文章の構成に着目して読めるようにした。そうすることで，さまざまな意見文を読む際にも書き手の主張や，主張の根拠等を色分けして囲む等，構成に着目して読む姿が見られた。同じ色の部分を読み比べることで，教科書教材の四つの投書に使われている読み手を説得するための工夫である「自分が経験したこと」「見たり聞いたりしたこと」「資料に基づく具体的な数値」「有名人のことばを引用」という根拠の挙げ方を捉えることができた。【構成○分かりシート（自信度）】 教科書教材で読み手を説得するための四つの工夫を捉えた後，子どもたちはその工夫があることで，書き手の主張に賛成かどうかを考えていった。３，４時間目の終末には，教科書教材から捉えた読み手を説得するための工夫が身の回りのさまざまな意見文で，どのように使われているのかを確かめた。そうすることで，教科書教材で見つけたそれらの工夫が，身の回りのさまざまな意見文で使われていることを実感できた。【広がり∞コーナー（関心度・自信度）】

勝利を求めてこそスポーツに意味が

高校生　平野　健一　17

6月15日の朝刊にのっていた加東さんの投書を読みました。でも，ぼくは加東さんの意見とはちがう考えを持っています。

ぼくは，スポーツは勝利を求めてやるからこそよいのだと思います。そして試合に勝つためには，ある程度体に負担をかけても練習することが必要だと思います。

なぜなら，試合に勝ちたいからこそ，選手は練習を積んで体をきたえ，技術を進歩させることができるからです。野球でも，どんなスポーツでも，陸上でも，どんなスポーツでも，厳しい練習を通して，体のよりよい動かし方や新しいわざ，強い心を身に付けられるのだと思います。仲間と楽しみながら適度にスポーツをしていたのでは，このようなものは得られないと思います。

また，実際にいろいろな大会を見ても分かるように，選手たちの顔に，「やりきった」という表情が，はっきりと表れているのです。テレビで見る，表彰台の中央に立った選手たちの顔は，どれも喜びにかがやいています。だからこそ，選手は苦しい練習にもたえ，努力をし続けるのだと思います。

確かに，スポーツをやっていて，すぐに体をこわすことがあるかもしれません。でも，それはまちがった方法で練習をしたからだと思います。練習方法を改善すれば，体をこわすことはないはずです。

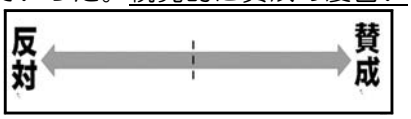
勝利を求めるからこそ，人は努力をしないと思います。記録も，技術も，勝利を求めるからこそ進歩してきたのだと思います。

【構成○分かりシート】

【広がり∞コーナー】

② 新たな問題を共有する（５時間目）

書き手の主張や読み手を説得するための工夫を読み取ってきた子どもたちは，教科書教材の四つの投書それぞれについて，どれくらい賛成するかを，賛成メーターに表していった。視覚的に賛成の度合いを示すことで，友達の考えとの異同に気付けるようにし，なぜ友達がそのように考えたのかを知りたいという友達の考えに対する関心を高めた。【賛成メーター（関心度）】その際の様相は，次の通りである。



【賛成メーター】

子どもの姿

Ｔ：それぞれの投書についてどれくらい賛成なのか，友達と賛成メーターを見比べてみましょう。

C1：私は，投書①にはあまり賛成していないよ。でも投書③にはすごく賛成だよ。

C2：僕は，投書①，②には，あまり賛成してないけど投書③と投書④には賛成しているよ。○○さんはどう考えたの。

C3：僕は，二人と違って，投書①に賛成だよ。投書④には，賛成しないよ。

C4：みんな考えが全然違うね。私は○○さんと，よく似た考えだよ。どうして△△さんは投書④に反対なのかな。

このようにグループで賛成メーターを見せ合い，考えがさまざまにあることを知った子どもたちは「なぜ友達はそんなに賛成したのだろう」等，友達の考えについて関心が高まった。その後，グループで交

流したことで同じ意見文を読んでいるのに，それに対する考えとその理由が，読み手によってさまざまにあることに気付いた。つまり自分の考えと友達の考えとの間に認識のずれを感じたのである。グループで発表した後は，全体で交流し，交流したことを踏まえて，再度，四つの投書に対して，自分の考えを見直す場を設けた。そうすることで，「最初は④の投書に賛成だったけれど，言葉を引用した有名人を知らない人にとっては確かに説得力がないね」等と考えが広がったり，深まったりした姿が見られた。

振り返りでは，「分かったこと」「難しかったこと」「もっとしてみたいこと」の三つの観点で振り返らせた。難しかったことについて友達と伝え合うことで，そのことを友達と協力して解決できたことが表出された。また，もっとしてみたいことについて話し合うことで，「さまざまな意見文についても友達の考えを聞きたい」「グループ以外の人の考えを聞きたい」「読み手を説得するための工夫を使って投書を書きたい」等，新たな問題が数多く表出された。他の意見文を読み，友達に意見を聞くことで自分の投書を書く際に生きてくることを共通理解し，「さまざまな意見文で友達と考えを交流しよう」という課題を設定した。

③　設定した課題の解決に向かう（６時間目）

前時の学習を振り返り，本時は「さまざまな意見文で友達と考えを交流しよう」という課題であることを確認した。そして，広がり∞コーナーから意見文を選び，前時と同じようにどれくらい賛成かと，その理由を交流した。これまでの学びを生かして主体的に話し合い，課題解決に向かう姿が見られた。

子どもの姿

T：広がり∞コーナーから考えたい意見文を選んで，どれくらい賛成かと，その理由を考えてみましょう。

C5：この意見文（トイレの有料化についての投書）は，自分の経験したことを基に主張しているね。僕はこの書き手と同じで，トイレに行くだけでお金を払っていたら子どもはトイレに行けなくなると思うから反対だよ。

C6：（学習意欲低位群）私も反対です。理由ははっきりしなかったけど，確かに，働いていない子どもやお年寄りからしたら買い物等に行きにくくなるね。

C7：私は，有料化してもいいと思うよ。だって，トイレをきれいに保つにはお金がかかるし，お金を払って使うとしたら大切に使おうとすると思うよ。アンケートをとって，たくさんの人がどう思っているかも示せたら，もっと説得力が増すかもしれないね。

C6の子どもは，教科書教材の投書については，自分の考えを進んで友達に伝えられていなかったが，自分で選んだ意見文では賛成かどうかを進んで考え，その理由も友達に伝えようとする姿が見られた。

（５）考察

本実践では，自分たちで身の回りの意見文を探し，見つけたものを共有する場面を位置づけたことで，教科書教材以外の投書についても意欲的に自分の考えを創造することができた。見つけてきた意見文を読む際には，「私は賛成だけど，他の立場の人はきっと反対の人が多いと思うよ。その理由は…」等のように多様な読み手の視点をもって読む姿が見られた。さらに，そのことを自分が投書を書く際に生かし，根拠の挙げ方を複数取り入れている姿も見られた。また，振り返りにおいて，難しかったことを交流した際，友達との関わりによって解決できたことを全体の場で共有することで友達と協働することのよさを実感することができた。一方で，難しいと感じたことをグループの中で十分に語ることができなかった子どももいた。その理由として高学年の子どもにとっては，難しかったことを友達に語ることに抵抗があったり，グループのメンバーによって，自分の素直な思いを語ることが難しかったということが考えられる。教師はそのような実態も把握し，グループ構成の配慮等を行う必要がある。